

三岸節子 〈短歌ポスト〉 入選作品 (令和五年前期分)

選者 小塩卓哉 (現代歌人協会理事)

【優秀作】

さいたさいたさくらがさいた

はかなさもあはれもあらず節子の絵かがやくいのちあふれるいのち

大阪府富田林市 奥村 和子

〈評〉

節子の晩年の大作を前にして作者が全身で感じ取るのは、まさにあふれ出るような輝きと生命力である。そのような強力なエネルギーを前にすると、「はかなさ」「あはれ」も吹き飛んでしまおうと言うのだろう。下句の變化をつけた繰り返しが、節子の大胆な筆致をも象徴しているようだ。

細い運河

差し込みし光の向こうをじっと見る明日への出口我は生きたし

稲沢市 安田 一子

〈評〉

建物と建物との間に差し込む光の先を凝視する作者がいる。まるでそこが「明日への出口」であるように。そんな細い場所が出口に感じられるのは、よほど閉塞された状況にある作者なのだろう。そのような気持ちに結句の「我は生きたし」に強く出ているし、この「細い運河」を描いた節子の心情をも代弁しているようだ。

さいたさいたさくらがさいた

ぐるぐるり渦巻く花々咲きはこる心まきこみ「さくらがさいた」

大府北中学校 三年生 増田 風依

〈評〉

上二句の「ぐるぐるり渦巻く花々」で一度切って読むのがよいのだろうか。そのような咲き誇る心をまきこむようにして、この絵画が存在するのだと言っている。絵画のタイトルの一部「さくらがさいた」を結句とすることで、この絵のテーマをどんと読者に突きつけるような迫力が生まれた。



三岸節子 《さいたさいたさくらがさいた》 1998年 ©MIGISHI



三岸節子 《細い運河》 1974年 ©MIGISHI



三岸節子 《さいたさいたさくらがさいた》 1998年 ©MIGISHI

【佳作】

もや

みんなしておどらばおどれくらきよにきもちだけでもあかるく生きよ

稲沢市 大熊 信吾



三岸節子 《もや》1937年 ©MIGISHI

花(絶筆)

輝いた旅路の幕も鮮やかに命尽きるまで花咲かせたり

一宮市 中島 克己



三岸節子 《花(絶筆)》1999年 ©MIGISHI

花(絶筆)

美しく花びら広げ上を見て永遠の道いざかけあがる

一宮市 森 健二



三岸節子 《花(絶筆)》1999年 ©MIGISHI

自画像

またあいに来てしまったすき透ったみつめる瞳豊かな赤に

大阪府茨木市 河野 真理子



三岸節子 《自画像》1925年 ©MIGISHI

ブルゴーニュのブドー畑

堂々と風吹き抜けるブドー畑節子の葛藤血飛沫の赤

兵庫県宝塚市 井野 寛基



三岸節子 《ブルゴーニュのブドー畑》1979年 ©MIGISHI

三岸節子自画像

絵の君に何が見えるかと吾問へば汝が行く道と優しく答ふ

一宮市 渡辺 なごみ



三岸節子 《自画像》1925年 ©MIGISHI